

5社のファイナリストから、MRT株式会社がグランプリを受賞。

ファイナリスト概要

グランプリ	遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」／ MRT株式会社	遠隔診療（再診）・健康相談サービス「ポケットドクター」は、手元のスマートフォンやタブレットに搭載されているカメラやウェアラブル機器を利用することで、医師は相談者の顔色や患部の状況、ウェアラブル機器から収集される様々なバイタルデータを確認することが可能なため、より具体的なアドバイスや診療を行うことができる。
優秀賞	糖尿病の方とも一緒に食べられるごちそう／ 株式会社 竹屋旅館	医療機関、研究機関、生産者らと連携しサプライチェーンを構築、独自の調理法を組み合わせた糖尿病の方も食べられるレシピを確立患者も健常者も一緒に楽しめる時間を提供している。
	自宅で薬剤師に相談しながら薬を手に入られるWEBサービス「ミナカラ」／ 株式会社ミナカラ	一般用医薬品を購入できるWEBサービスや、購入後の医薬品（処方薬を含む）を薬剤師が迅速に自宅までお届けするサービスを提供。薬の選択や服薬中の疑問・不安を解決する等、効果的な服薬管理を提供している。
	赤外線センサーを使用した無接触・無侵襲の体動検知装置を装備した医療機器・介護機器の製造販売／ 株式会社アイデアクエスト	赤外光を使用した独自のセンシング技術により、体の姿勢、動きとともに呼吸に伴う微細な体動を検知でき、危険な姿勢や体の異常があれば、必要な情報をいち早く通報。非接触・非侵襲・無拘束で見守りや診断が可能
	高齢者と家族の関係を深める「会話サービス」と「親史作成サービス」／ 株式会社こころみ	「孤独」に対して「聴き上手」のノウハウをベースとした①会話型見守りサービス「つながりプラス」、②親子の絆をつなぐ親史作成サービス「親の雑誌」を提供

1. JHeC2016グランプリ受賞者の概要

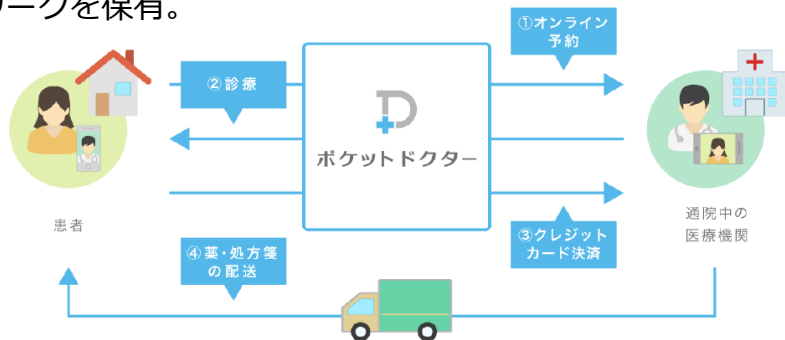
遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」

会社概要

会社名	MRT株式会社
資本金	4億3,167万円（2019年12月31日現在）
従業員数	140名（2017年1月末時点※全雇用形態含む）
概要・沿革	東大附属病院の医師たちの互助組織を母体として現役医師が2000年に設立。2014年東証マザーズに上場し、医療・ヘルスケア分野の新規事業、提携事業を次々にローンチしている。

事業概要

- ビデオ通話を通じて医師に症状を見てもらいながら診療もしくは健康に関する相談を行うことができる。オンライン決済、薬・処方箋の配送、ヘルスケア機器とのデータ連携といったことも可能で、遠隔診療における予約から決済、その後のフォローまで一連の流れを、スマホ・タブレット上で実現可能。
- 業界トップクラスの医師紹介実績と、全国1万施設と連携した医療ネットワークを保有。



【当日のプレゼンの様子】



2. JHeC2016優秀賞受賞者の概要 (1)

糖尿病の方とも一緒に食べられるごちそう

株式会社 竹屋旅館



発表概要

当社は「医学の技術」と「調理の技術」を組み合わせ「糖尿病の方とも一緒に食べられるごちそうレシピ」をつくり、食の楽しさを提供しています。医療機関、研究機関、生産者らと連携しサプライチェーンを構築、独自の調理法を組み合わせることでレシピを確立し、大量生産を可能としました。

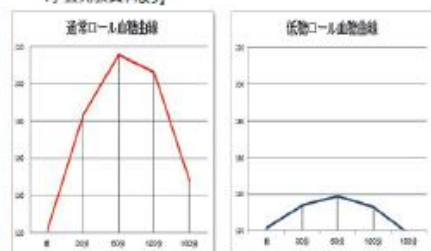
現在はフルコース「駿河湾レシピ」と宅配「いとをかし」を展開。食事制限の条件をクリアしながら「圧倒的な美味しさ」を追及したことで、駿河湾レシピは医療機関の患者向け食事会に、いとをかしは都内百貨店で販売を実現。患者も健康者も一緒に楽しめる時間を提供しています。

今後は医療産業や外食産業、観光産業らと連携し「誰もが楽しめる喜び」を世界に発信していきます。

フルコース「駿河湾レシピ」



【通常ロールケーキといとをかしロールケーキの血糖値比較
(学会発表資料より)】



組織概要

1948年設立、従業員数35名(内料理人は5名)静岡市にてホテルクエスト清水を運営し、宿泊飲食事業に加え、本事業を行う。特に食に注力して事業を行い「健康」に寄与する調理法の開発を軸とした差別化を図ってきた。

結果として経常利益率20%超を達成(2014年度)2014年には厚生労働省より「人に優しい地域の宿づくり賞」、2015年には経済産業省より「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定。



登壇者プロフィール

氏名 竹内 祐輔
所属 株式会社 竹屋旅館
役職 代表取締役

1982年静岡市生まれ。大阪大学経済学部(体育会水泳部)、早稲田大学商学研究科(MBA)卒、三菱東京UFJ銀行勤務を経て株式会社竹屋旅館に入社。2015年より現職。併行して2013年に㈱コルクを設立し健康食事業に参入。2015年に4代目として事業を引き継ぎ「30年後に必要となるおもてなしの姿」を模索し続ける。一方、MBA時のベンチャーゼミの学びから、社会的課題解決への挑戦として自身でも起業を経験。

自宅で薬剤師に相談しながら薬を手に入れられる WEBサービス「ミナカラ」

株式会社ミナカラ

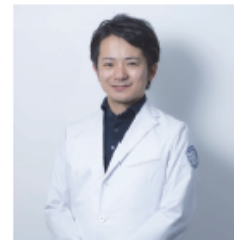


発表概要

ミナカラはインターネット上で一般用医薬品を購入できるWEBサービスや、購入後の医薬品(処方薬を含む)を薬剤師が迅速に自宅までお届けするサービスを提供します。

また、購入前も購入後もいつでもどこでも常に薬剤師に相談ができるサービスを提供することにより、薬の選択や服薬中の疑問・不安を解決します。また、服用情報を本人だけでなく家族と共有することにより、より効果的な服薬管理ができるようになります。

これによりインターネットサービスならではの利便性だけでなく、安全・安心に服薬管理をすることができるほか、生活習慣病など重症化防止・予防の観点から服薬管理を継続する必要がある方が持続的に適切な行動をとれるように支援します。



登壇者プロフィール

氏名 喜納 信也
所属 株式会社ミナカラ
役職 代表取締役薬剤師

1983年7月18日生まれ。北里大学薬学部卒業(薬剤師・2007年3月)。
グローバル経営大学院卒業(MBA・2013年3月)。
2007年4月 - 2014年3月 大手ERPメーカー・ワークスアプリケーションズにてコンサル・営業・開発グループのマネジメント、コンタクトセンター部門・アカウントマネジメント部門・品質評価部門等の事業部を立ち上げ。
2008年4月 - 2010年10月 渋谷区の調剤薬局に薬剤師として従事。3店舗の運営と新店舗立ち上げに従事。
2013年11月 当社設立
2014年8月 事業開始(ミナカラをサービスリリース)



組織概要

小山 竜太郎(取締役 開発責任者)
創業メンバーとして参画し、創業期開発リーダーとして活躍。
既事業ミナカラの早期成長および主要開発メンバー採用・開発組織構築実績を牽引し、2015年に弊社取締役に就任。

村田 祐介(取締役)
インキュベイトファンド 代表パートナー。
ゲーム立ち上げ、メディア立ち上げを中心に多数の実績。gumi、Aiming、ポケボ、togetter、weblio、gamewith等の初回投資および立ち上げ実績。
他、エンジニア5名、薬剤師3名の「医療×エンジニアリングの専門家集団」で運営中。

3. JHeC2016優秀賞受賞者の概要 (2)

赤外線センサーを使用した無接触・無侵襲の体動 検知装置を装備した医療機器・介護機器の製造販売

株式会社イデアクエスト



発表概要

赤外光を使用した独自のセンシング技術で、お年寄り・新生児にも優しい医療・福祉に貢献します。

- ・体の姿勢、動きとともに呼吸に伴う微細な体動を検知でき、危険な姿勢や体の異常があれば、必要な情報をいち早く通報します。
- ・非接触・非侵襲・無拘束で見守りや診断が可能で、患者・被介護者に負担をかけません。
- ・個人を特定できない画像を使用し、プライバシーを保護できるため、欧米で高い評価を受けています。
- ・地域医療介護福祉ネットワークの構築に必要なプラットフォーム技術のバイオニアを目指します。

当社機器にて収集するビッグデータの分析により、Eヘルスの世界的リーダーを目指します。

【福祉用見守り装置】ベッド見守り装置、トイレ見守り装置、浴室見守り装置
【医療用診断装置】成人用呼吸機能測定装置、新生児用呼吸機能測定装置、嚥下機能測定装置



組織概要

慶應義塾大学理工学部中島真人教授（現名誉教授、当社会長CTO）が発明した技術をもとに、2012年3月に会社設立
社長CEOは前サイバーダイナミクス副社長の坂本光広
資本金493百万円
所在地：東京都大田区
従業員31名
保有特許37件
AMED、NEDOの支援事業に数多く採択される
2015年、フランス・ノルマンジー州のベンチャー企業コンテストで欧州以外から唯一選抜され、同地に現地法人を設立



登壇者プロフィール

氏名 坂本 光広
所属 株式会社イデアクエスト
役職 代表取締役社長

昭和25年生。
東京教育大学卒業後三菱銀行に入社。退社後KPMGあずさ監査法人代表社員待遇として産学連携活動を推進、筑波大学・慶應義塾大学を中心に教授や学生の研究シーズ事業化を支援。
2006年～2012年6月までCYBERDYNE社COOとして事業基盤造りを推進。
2012年6月、2社目のテーマとしてイデアクエスト社を中島CTOと共に設立、地域包括ケアの世界的プラットフォーム技術確立を目指し事業展開中。

高齢者と家族の関係を深める 「会話サービス」と「親史作成サービス」

株式会社こころみ



発表概要

高齢者と家族の関係を深める「会話サービス」と「親史作成サービス」

日本は超高齢社会に突入して久しく、独居高齢者の見守り、認知症予防、健康寿命延伸と言った多くの国家的課題を抱えています。弊社は、その状況下において「孤独」に対して「聴き上手」のノウハウをベースとした

- ①会話型見守りサービス「つながりプラス」
 - ②親子の絆をつなぐ親史作成サービス「親の雑誌」
 - ③事業を通じて得たノウハウを活用した地域創生やB to Bビジネス等を通じて、地方自治体や大学、他社とも連携をしながら孤独と孤立の削減に取り組んでいます。
- 孤独と孤立をなくすことが、高齢者の健康寿命の延伸や認知症等の疾病の削減にもつながり、日本における社会保障費の削減にも寄与できると確信しています。



会話型見守りサービス「つながりプラス」*イメージ



親のための自分史作成サービス「親の雑誌」



登壇者プロフィール

氏名 神山 晃男
所属 株式会社こころみ
役職 代表取締役社長

1978年5月12日生まれ
長野県伊那市出身
慶應義塾大学法学部政治学科卒業
十年間、投資ファンドのアドバンテッジパートナーズに勤務。
コメダ珈琲店、ウイングアーク1st等を担当。
2013年6月に株式会社こころみを設立。
「コミュニケーション」と「高齢者マーケティング」の専門家として数々のセミナーや勉強会に出演中。

組織概要

株式会社こころみは「すべての孤独と孤立なくす」ことを目的に2013年6月に設立されました。超高齢社会、都市化に伴う孤立、ITテクノロジーの発展による情報格差などから生じる国家的課題をコミュニケーションの力によって解決します。「聴き上手の専門家集団」として、聴き上手のためのトレーニングを受けた50名のスタッフを採用し活動を行っております。

顧問に心理学者の佐藤真一（大阪大学大学院教授、認知症専門医）の長谷川嘉哉医師、著述家の小沼朝生氏の3氏が就任しており、コミュニケーション技術の専門領域におけるサービス構築を行っております。